

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

| | |
|---|------------------|
| 名称：株式会社マスネットワーク | 所在地：長野県松本市中条1-14 |
| 評価実施期間：平成29年6月14日から平成29年11月8日 | |
| 評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 060802 060672 060972 050231 | |

2 福祉サービス事業者情報（平成29年11月現在）

| | | |
|---|-------------------------|---------|
| 事業所名：御代田町やまゆり保育園 （施設名） | 種別：認可保育園 | |
| 代表者氏名：御代田町長 茂木 祐司 （管理者氏名）竹内 英雄 | 定員（利用人数）：110 名 | |
| 設置主体：御代田町 経営主体： | 開設（指定）年月日： 昭和40年2月1日 | |
| 所在地：〒389-0207 長野県北佐久郡御代田町大字馬瀬口2091-6 | | |
| 電話番号：0267-32-3111 | FAX番号：0267-32-3111 | |
| ホームページアドレス： | | |
| 職員数 | 常勤職員：15名（内、園長1名） | 非常勤職員 名 |
| 専門職員 | 保育士 11名 | 保育士 名 |
| | 調理師 3名 | 調理師 名 |
| 施設・設備 の概要 | 保育室3室他 469㎡ | （設備等） |
| | | 屋外遊具等 |

3 理念・基本方針

| |
|--|
| ○保育理念 一人ひとりの子どもを大切に、保護者や地域と共に子どもの育ちを支援する保育を目指す。 |
| ○目標 ・あいさつのできる子ども・人の話の聞ける子ども・元気に体を動かす子ども ・楽しく食べることができる子ども |

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

| |
|---|
| 毎週金曜日を『なかよしクラスの日』として異年齢交流を行っている。今年で7年目を迎え、今では自由遊びの時間などに一緒に遊んだり、自分が年上の友達にってもらって嬉しかったことを友達にしていたりと自然な姿として現れ、園全体に仲の良い温かさが感じられるようになってきた。 |
|---|

5 第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|-------|
| 受審回数（前回の受審時期） | 今回初受審 |
|---------------|-------|

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

<異年齢保育の取組み>

異年齢保育は、3歳児から5歳児を対象に毎週行っている。身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感を持てるよう取り組んでいる。年少児は年長児のすることに興味を持ち、やってみたい気持ちが芽生え、年長児は、年下の子どもの気持ちに気づき、受入れて一緒に遊ぶ中で、思いやりやいたわりの気持ちを持ってやさしく世話している場面がみられている。やまゆり保育園全体像・子どもの姿に異年齢保育を重ねてきていることで保育園全体に仲の良いあたたかさが感じられる。とあるように異年齢保育の取組みの成果が見られている。今年度の研究テーマ「異年齢保育」の取組みが期待される。

<食育への取組み>

0歳児から5歳児まで食育計画に添い、保育所から家庭に時には地域に働きかけをして食育をしている。未満児は保育所、家庭と連携を密にして育ちに応じた食事ができてきている。3歳児からは子どもの食事への関心を高めるために参観日の試食会、遠足・運動会の弁当の献立を親子で相談して決め一緒に買い物に出掛ける等している。季節の行事食を地域の方を交えて一緒に作る、野菜作りから調理に至る過程を経験する、時には地域の生産地を訪ね食材を作る様子や関わる人たちを知る等の経験をしている。食事マナー、ルールの大切さを繰り返し伝えていく。毎月発行している食育だより、毎日給食サンプルの提示等は親子で食に関する会話を増やしている。一体的な取組みにより食事に興味、関心を持つ子どもたちが多い。

◇特に改善する必要があると思う点

<保護者等からの意見、要望、苦情への取組み>

昨年度、町こども係が中心となり、第三者評価と同じ項目で保護者へのアンケート調査を実施し、保育の質の向上を目指して、改善点を文書化するなど職員会で検討されている。苦情解決の仕組みに対する体制は整備されているが、数年、第三者委員会が開催されていないなど、仕組みが機能しているとは言い難い。保護者からの意見・要望は、保育所の理念・方針が保護者と共通理解されて伝えていないことも多く、保護者への伝え方の課題や苦情解決の仕組みについて保護者への周知が不可欠である。さらに、満足向上を目的とする意向調査の実施や検討会議を設置し、利用者保護の視点と同時に保育の質の向上にむけた組織的な取組みに期待する。

<安全管理とその計画>

町立2か所の保育所共通の安全指導計画、避難訓練指導年間計画が作成されている。その計画に沿って、職員会では、毎月の避難訓練の実施、反省、改善策を検討し、年2回の不審者想定避難訓練など評価・見直しがされている。しかし、土曜保育は半年ごとに保育所を変更し、環境の変化に対する負担が大きい子どももおり、安全確保、事故防止に配慮が必要である。さらに、子どもの育ちを支援するためには、生きていく中でさまざまな型の危険を予知し、園児自ら回避できる力を養うことも望まれている。豊かな自然の中で元気に体を動かす子どもの状況、保護者の意向への配慮など総合的な視点でのアセスメントから計画策定、実施、評価・見直しといった一連のプロセスにより保育の質の向上が期待される。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目（別添1）

内容評価項目（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添4）

（平成29年11月30日記載）

これまで保育園として、第三者から保育全般について意見等を聞く機会が有りませんでした。昨年平成28年度は、保護者アンケートを実施しました。本年度は初めて、保育事業の質の向上をさらに図ることを目的として、保護者アンケートの他に保育事業者としての事業評価を実施しました。

保育運営のうえで、当たり前に行ってきたこと等について、根拠規定等を具体的にあげて頂き、いくつか再考されるよう指摘を頂きました。園内では普通だと思ふ事柄などについて、アドバイス等を頂き、改善点等に「気づけた」ことが大変良かったと思います。今後、指摘事項等を検討し、利用者視点からさらに保育事業所サービスの質の向上に努めていきたいと思ひます。